

## 令和6年度 第3回（第30回）四国中央市子ども・子育て会議 議事要旨

○ 日 時 令和6年12月4日（火） 13:30～15:00

○ 場 所 市役所庁舎棟 4階 401会議室

○ 委員出席状況

### 【出席】

委員長	宮崎 さゆり	(四国中央市民生児童委員協議会)
副委員長	三宅 彩香	(あやか助産院)
委員	中西 かふみ	(NPO法人ふれあい)
委員	土肥 義紹	(学校法人金生幼稚園理事長)
委員	藤枝 俊之	(病後児保育ルーム エミリア)
委員	藤川 美江	(育児サークル「リトル☆スター」)
委員	藤中 美咲	(三島東幼稚園PTA副会長)
委員	近藤 望	(市PTA連合会)
委員	中田 信也	(四国中央地区労働者福祉協議会)
委員	大西 緑	(四国中央市子ども若者発達支援センター長)

### 【欠席】

委員	大西 誠治	(市民公募)
委員	高橋 紀子	(市民公募)
委員	近藤 裕美	(四国中央市立北保育園長)
委員	神野 茂	(四国中央市立北金生第一小学校長)
委員	星川 隆志	(四国中央市社会福祉協議会事務局長)

### 【事務局】

福祉部長	細川
こども家庭課長	合田
こども家庭課	坂田、近藤

### 【傍聴者】

1 名

○ 次第

1. 開会

2. 部長あいさつ

3. 議事

(1) 四国中央市こども計画素案について

(2) タウンコメントの実施について

4. 閉会

○ 議事内容

次第3. (1) 四国中央市こども計画素案について

〔柗ぎょうせい〕 素案の説明

(質問・意見)

〔委員〕・運用の課題をどう修正し、それを盛り込みながら実施していくか示されていない。

- ・小児医療の問題について、小児医療をどういうふうにするか。事業名欄の修正を提案。
- ・今後進めていくにあたり、どういう形で市民に周知するのか。
- ・計画だから仕方がないが、計画に息を吹き込むため、運用する「人」をどうつくっていくかがほしい。

〔事務局〕・小児医療のページについては、担当課と協議を進める。

- ・計画に息を吹き込むためのPDCAサイクルについては、こども計画の上位計画である地域福祉計画で、毎年関係各課が寄って進捗状況を確認する会議を開いている。こども計画も所管課が多岐にわたるので、地域福祉計画の検証実行委員会に倣った形でできればよいと思う。
- ・計画の進行管理を記載しているページがある。
- ・市民への周知は2月中旬くらいまでタウンコメントを実施。各窓口センター、各図書館、ホームページで掲載し、広報紙、LINEでお知らせする。計画に基づく事業をホームページ上に一覧で分かるように表示できればとも思っているが、各課で管理。今後、情報発信の別の方法を考えている。

〔委員〕・保育士の確保が課題にあった。潜在保育士が市内にいるのでその人たちを生かせない理由を潜在保育士の方に聞いた。賃金のことよりも、保護者との対応ストレスが離職の原因ではないかとのことでもあり、自分自身振り返らないといけなかった。シフトの関係、職場の雰囲気、正規で保育士で続けられない、出産したら退職しないと聞けないなど、そういう課題を解決すれば保育士確保の道が変わってくるという印象がある。

・不登校対策には、目標が最終的に学校に帰ることにいきがち。こども計画でもそこがメインのような感じを受けた。

〔委員〕・保育士確保については、待遇はここ10年くらいで飛躍的に良くなったが、受け入れる器があっても人がいない。今すぐ解消できる問題ではない。放課後児童クラブも同じ。

保育士の資格を取る人が少なくなっている。

保育士の待遇面が良くなったことを委員の皆さんも周りに知らせてもらいたい。

〔委員〕・そうことを分かりやすく公表していないのか。保育士の話を聞いていると知っていないようだ。

〔事務局〕市の初任給は広報に出ている。市は民間と比べると安い。

〔委員〕公立、私立で格差があるのか。

〔委員〕多少あるが、国がとても力をいれており、処遇改善としていろんな措置を行い、全て給与に反映されている。

〔事務局〕処遇改善に違いがある。公立は給与表で決まっている。

〔委員〕処遇だけの問題でなく、地域に女性が帰って来ない。女性に限らずここに来たくなる

ような環境づくり。

例えば教育環境など。

総合的に関連付けて色々なものに取り組んでいかないといけないと思う。

多様な事業者の参入促進、能力活用事業の記載がある。市独自の施策に繋がっていくと思う。

(施策) やりすぎ。少子化で税収も下がっていく中、(事業を) 間引く作業も必要。

[委員] 副食費の助成事業もぜひやろう。

[事務局] 学校副食費も含め給食費については、担当課では1年ごとの予算計上。

今後はわからない。

[委員] 消滅都市になるかどうかの判断基準の一つに、若年世代の女性の割合があると聞いた。

進学で外に出て、帰ってきた四国中央市でどんな生活ができるのか、帰ってきたくなくなるようなまちづくりに着眼点をもって取り組んでいかないと、消滅していくと思う。

[事務局] こども家庭課を中心に、複数課が入った「人口減少・少子化対策プロジェクト」チームがあり協議している。指摘頂いたまちづくりについてしっかりと議論している。また、職員全員が危機感をもっていると思う。

若手職員の部会を立ち上げ、自由な発想で事業について協議し、予算要求している。

委員の方からも、こども家庭課に意見を寄せてもらい、反映できたらと思う。

集まる場所、行きたくなる場所、若い人が集える場所がもう少しあったらよいと思う。

[委員] 製造業でも女性だけでなく男性も必要な人数が採用できない。休日過ごすところがないなどの理由で会社を辞め、色々な仕事、選択肢が広がる場所へ転出してしまう。

[委員] 最終的に各論が立ち消えになる危険性がある。

どういった議論が挙がったかを形にできる庁内のシステムを作ってもらえたらと思う。

[委員] PDCAサイクルでどのくらいでまわすのか。

[委員] 5年間はかなりスローだ。庁内でどのくらいのスパンで見直すのか考えてもらいたい。

[委員] こども施策の中で気になっているキーワードは「無理のない」だ。「子育ての負担軽減のために」がある一方で、基本的に子育ては大変なものだ。無理のない程度であれば政策としてパワーが低い。

大変だけど頑張れる支援や体制もどんどん作っていかないといけないと思う。

遊びの中で「屋内環境を充実してください」というのがあったが、便利なことの方で失われるものもある。自然に触れる、雨の日は雨と一緒に楽しむなど、充実させることに因って失われるものがあることを理解し、よく考えてやってもらいたい。

[委員長] 色々と意見が出たことに感謝する。

続いて議題(2)タウンコメントの実施について事務局から説明願いたい。

[事務局] ・タウンコメントについて

時期、閲覧場所など説明。

・振り返りや進め方、PDCAサイクルについては、毎年各課が進捗状況を協議する場を考える。

・国からの見直し時期だけでなく、毎年各課で協議しこども家庭課でも把握できるようにしたいと思う。

・タウンコメント終了後の会議、素案に対する意見への対応について説明

[委員長] タウンコメントは委員も意見を出せるということである。

ほかに意見があれば伺いたい。

[委員] 暮らしやすいと思う若者ほど、市に住み続けたいと回答とあるため、中高生の我が子に聞いた。中高生の暮らしやすいというのは、友達と楽しく遊ぶ、集まれる場所があった。今は楽しいと感じられないことが多いようなので、育児サークルでも子育て支援という形で、子供や親子が楽しめる場所、イベントを作っている。そこで感じるのは、「楽しい」を楽しめる余裕がない人が増えている。親子でなかなか過ごせず、土日といった休みに限られる。3歳までなど、親子で過ごせる時間が増えたら一番良いと思っている。

こども計画の「量の見込み」は子供が減るのに、確保方策は変化していない。

1人当たりが見られる子供でいっぱいいっぱいだ。保育士不足で保育士が本当になんばってなんとかしている状態というのを分かってもらいたい。計画に基本目標があるが、果たして安全にできるのかどうか考えたとき、利用定員ありきで考えるのは、子供の立場、親の立場、保育園の立場からみるとそうではないと思う。

「こども誰でも通園制度」は令和8年度から始まるが、確保方策で40人とあるのはどこの園に40人入れるのか。この制度を実施すれば、どこかが定員になるのが分かるので行先不安だと思っている。子どもの保育サービスの充実というが、充実すればするほど誰かが大変になって、誰かの余裕がなくなる。今からでも取り組まないと危ないと感じた。

[事務局] 委員が心配している部分は、担当課も把握している。

確保人数の設定について、担当課に確認する。

保育士不足は担当課も危機感があり、大学に出向きPRする取組もしている。

保育士の負担が離職に繋がることも承知している。昨年度からICTを採用し、事務負担を軽減する取組を実施している。

[委員長] 保育士だけでなくでもできる仕事を誰でもできるようにしていく、そういう人を時給で雇い、保育士は保育士だけの仕事をしてもらい、それ以外のことは他の人にやってもらう話をしていた。

[事務局] 地元の人を雇い、園の環境整備である仕事などしてもらい、保育士の負担軽減をはかっている。

[委員] 多様な就労の在り方がある。多様な保育の形態が生み出されるようになると、自由になり相乗効果になるのかもしれない。スタートはこれで良いが、色々な問題を吟味しながら修正に向けていくプロセスが必要な気がする。

[委員長] 他にあれば、メールなどで事務局に知らせてもらいたい。

以上で議事を終了する。